

橋下。維新の暴走——私はこう見る

「『大阪都』構想の設計図を見せる」と叫ぶ橋下氏と維新の会。特別区設置のための法定協議会から反対派をすべて排除するなど、この間の暴走をどう見るのか、これまで橋下氏とテレビ番組で直接討論し、「反維新」の論陣を張ってきた帝塚山学院大学教授の薬師院仁志さんに聞きました。

薬師院帝塚山学院大教授に聞く

選挙をにらんだ
手段に過ぎない

政党は普通、自らの政策
を実現するために頑張るも
のです。議会で過半数を持
たない中で、本当に実現し
なければ、他党に歩み寄
り、協力を求めなければな
りません。

維新が法定協から反対派
を締め出して特別区設置の
協定書案をつくっても、議
会で否決されるのは目に見
えています。橋下氏は専決
処分で住民投票を実施する

ことも否定していません。2年先送りしましたが、結

もはや市民の代表と言えぬ

が、こんなやり方は、「大
阪都」構想を実現不可能な
道に追い込んでいるような
ものです。

堺市は、昨年の市長選
で「大阪都」構想に反対す
る竹山修身市長が再選され
ました。そもそも「堺抜
き」の「大阪都」構想はあ
り得えません。橋下氏は
「大阪都」への移行時期を



薬師院仁志さん

やくしん・ひと 1961
年生まれ。京都大学大学院教育学
研究科博士後期課程中退。帝塚山
学院大学リベラルアーツ学部教
授。著書に『日本とフランス 二
つの民主主義』(光文社新書)、『民
主主義という錯覚』(PHP研究
所)ほか。

に、長期的に何かをつくり
上げるという営みは、もと
くれば有権者の声を議会に
届けるために活動していま

もと橋下氏の手法に合いま
せん。「大阪都」構想は、
本当に大阪のためになるか
どうかといった問題は抜け
落ち、選挙の手段になって
しまっています。

もと橋下氏の手法に合いま
せん。「大阪都」構想は、
本当に大阪のためになるか
どうかといった問題は抜け
落ち、選挙の手段になって
しまっています。

根本的な原理は 全員による統治

各党の議員は、支持して

出直し選で再選された橋
下氏は、「市民の信任を得
た」と言いますが、過去最
低の投票率や白票など、彼

民主主義の原理は「全員
による統治」。多数決が民
主主義ではありません。
橋下氏は、「大阪都」構
想の協定書を住民投票にか
けることが「究極の民主主
義」と主張しますが、勘違
いです。「住民投票で決め
ろ」とは、「多数派が勝ち
だ、少数意見は負けだ」と
言うのと同じ。歴史的に、
住民投票という手法を好ん
だのは、ナポレオン1世と
3世、そしてヒトラー。独
裁者の手法なのです。

「大阪が好き」の 大前提に立って

仮に「大阪都」になって
特別区ができようと、私た
ち大阪市民は、日々暮らす
このコミュニティから出
て行くわけにはいきませ
ん。大切なのは、住民を

公法学者・国際法学者の
ハンス・ケルゼン(188
1~1973年)は著書
『デモクラシー論』で、「対
立する集団の利害を調整し
て妥協させることができな
ければ、民主制は成立しえ
ない」と述べ、「妥協のな
い民主制は、その反対のも
のに、つまり独裁制に転化
する恐れがある」と警告し
ています。

出直し選の前後から維新
以外の各党は、橋下氏のや
り方に対抗して、まさに利
害を調整し、妥協し、一緒
に考えながら進んでいま
す。これは、これからの大
阪の地方自治や民主主義に
とって大切なことです。意
見が対立するのは当たり
前。その上でどうするかを
考える大前提が、「大阪が
好き」「大阪をよくしたい」
ということなのです。